

KJ法とは

(有)関西中小企業研究所



創造技法(8) 「KJ法」とは

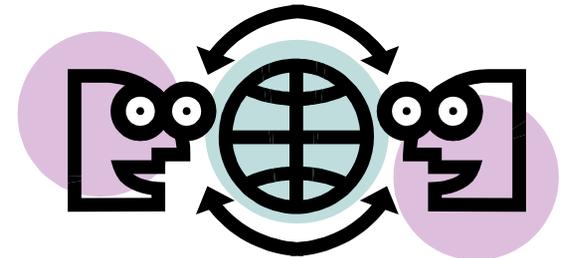
問題の発見、解決策の発想に
周知を集めるための手法

問題解決の手法

- ・解決しようとする問題に関係ある事項を多角的に抽出。
- ・それらをボトムアップ式で体系的に整理。
- ・その中から論理的に答えを求めようとする技法。

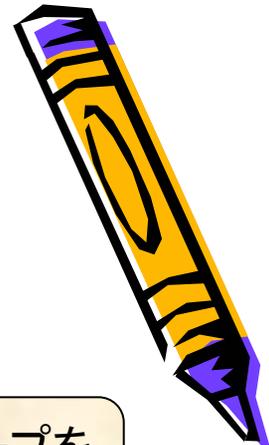
- 技法分類 収束技法
- 考案者 川喜田二郎
文化人類学者、東京工業大学名誉教授
- 適用対象 集団・個人、全ての層、全職種

元素の
周期律表
(メンデレーフ)





創造技法(8) 「KJ法」の進め方大枠



テーマを決定する

集めたものに、そのグループを
代表する表現を付ける

必要な調査の実施

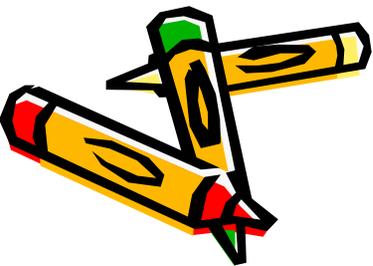
テーマへの答えカードを作る
(1事項1枚)

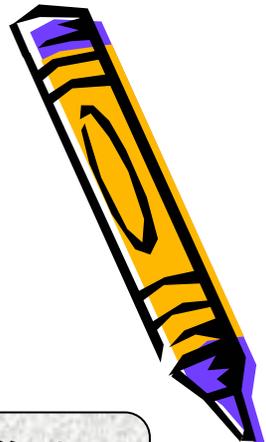
順次上位の束に集める

それらのカードの意味が
類似したものを集める

模造紙等に、次元の均衡を
図りながら全体像を纏める
(最大10ヶ以内のグループ)

全体を纏めて発表、文章化





創造技法(8) 「KJ法」のイメージ

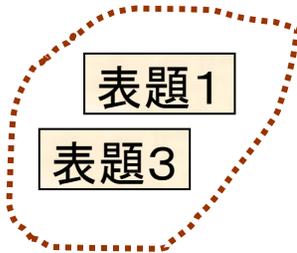
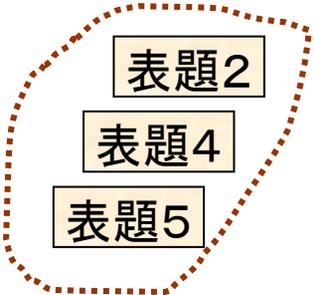
表題は
纏めだけでなく
新発想も視野に

収束の手法

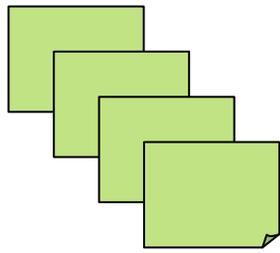
類似の内容カードを集め
表題を付けたイメージ

表題A

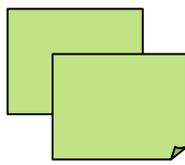
表題B



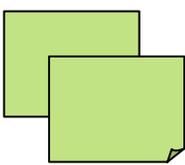
表題3



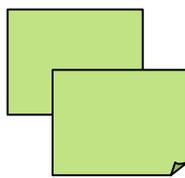
表題4



表題2



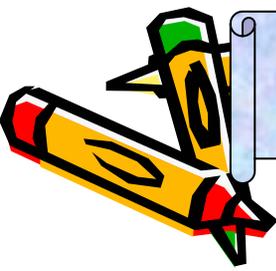
表題5



表題1

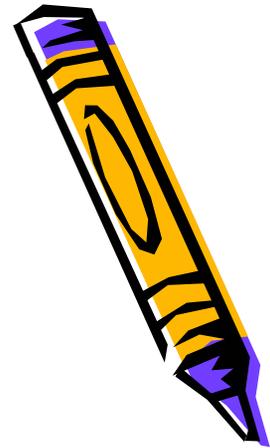
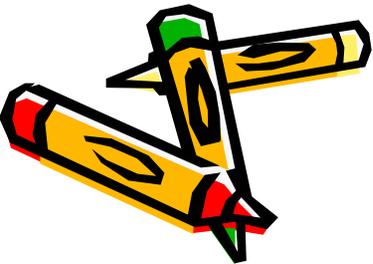


データをして語らしめよ
(川喜田二郎教授語録より)



創造技法(8) 「KJ法」の注意点

- 1) 各1枚カードに1ケの意味を持つ短い文章。
- 2) ボトムアップ型の情報整理。
- 3) 1グループは3枚程度を目標に
- 4) 複数回の実施も視野に。



終

(有)関西中小企業研究所

